

令和5年度 岩手県土砂災害発生危険基準検討有識者会議

日時：令和5年7月19日（水）

午後1時30分～3時

会場：岩手県民会館第1会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 出席者紹介

4 要綱説明

5 座長選出

6 議 事

(1) 降雨・災害データ期間及びCL対象災害の選定について

(2) CLの選定について

(3) 除外メッシュについて

(4) 土壌雨量指数下限値について

(5) その他

7 閉 会

令和5年度 第1回 岩手県土砂災害発生危険基準検討有識者会議
構成員・出席者名簿

構成員

機 関	職 名	構成員	随行者
岩手大学	名誉教授	井良沢 道也	
国土交通省国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 土砂災害研究室	室長	瀧口 茂隆	
国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	副所長	木村 晃	流域治水課 中川 徳雄
国土交通省 気象庁 盛岡地方气象台	防災管理官	三上 康治	土砂災害気象官 上澤 健一
岩手県復興防災部 防災課	防災危機管理監	駿河 芳典	
岩手県県土整備部 砂防災害課	総括課長	戸来 竹佐	

事務局

機 関	職 名	構成員	備 考
岩手県県土整備部 砂防災害課	砂防災害担当課長	吉田 直矢	
岩手県県土整備部 砂防災害課	主任主査	武部 洋平	
岩手県県土整備部 砂防災害課	主査	鈴木 正義	
岩手県県土整備部 砂防災害課	技師	太田 拓也	
(株)建設技術研究所砂防部	上級技師	宇野澤 剛	
(株)建設技術研究所砂防部	グループリーダー	笹山 隆	
(株)建設技術研究所砂防部	主任技師	戸舘 光	

令和5年度 第1回 岩手県土砂災害発生危険基準検討有識者会議

日時：令和5年7月19日(水) 13:30~15:00

場所：岩手県民会館 第1会議室

1 議事概要

(1) 降雨・災害データ期間及びCL対象災害の選定について

瀧口構成員：土砂流とはどういったものを指すのか。数は何件程度か。

→事務局：災害報告で土砂流と記録されているもので、土石流に比べ粒径が小さくさらさらとしたものが流出する事例である。正確な件数は手元にデータがないが、あまり多くない。

→瀧口構成員：土砂流を対象災害に含めていることがプラスに働いているか、マイナスに働いているか確認した方がよい。空振の要因となっている可能性もある。

瀧口構成員：R5.3の「考え方」では、2006年以降で10年以上のデータという表現にはなっていない。正確な表現で引用すること。

木村構成員：土石流の上流域メッシュの雨量について、最大の雨量を示しているメッシュは主に別の溪流に流入するメッシュではないか。該当の溪流の雨と考えるなら、当該溪流の流域の面積が最大のメッシュ等を使用すべきでないか。

→事務局：空振抑制のため、今得られる情報の中でできる工夫を示したものである。今資料中に示した数値をそのまま使用するという意味ではない。どのメッシュの雨量を適用するかはいくつか方法があると考えます。

→瀧口構成員：該当の流域はいくつかの支川が合流している。どの支川で崩壊が起きて土石流となったかは特定できないか。

→事務局：平成28年災害時には国土地理院が調査をしているはずである。現時点で位置を特定してはいないが、過去のデータを整理すれば把握できる可能性がある。

井良沢座長：CL対象災害を選定する際に空振りの原因となるものを除く工夫は重要である。ただし、確認が難しかったり時間が多くかかる内容であれば、ある程度の割り切りも必要と考える。余談だが、平成28年の土石流は崩壊起因でなく、堆積土砂の再移動と考えられる事例もかなり多かった印象である。

三上構成員：レーダー雨量は、全国的な傾向では2007年からドップラーレーダーが導入され、2009年から二重偏波レーダーが導入された。岩手県を観測する秋田のレーダーは2012年頃にドップラーレーダーになったはずである。これらを境にデータの性質がかなり変わっているので留意した方がよい。

→井良沢座長：サンプル的にデータの確認を行ってはどうか。

駿河構成員：空振が多いため実態として、市町村があまり高齢者避難準備情報や避難指示を

出さない状態であり、大きな問題だと考えている。土砂災害警戒情報の発表に対して、避難指示は7回に1回くらいしか出していない印象である。

時期的な問題もあるが、大雨警報のあとすぐに警戒情報発表となることがあり、この場合は避難指示を出しにくいという状況も理解できる。議題に対する意見ではないが、実態についてのコメントである。

→井良沢座長：空振りの頻度が下がれば市町村が避難指示等も出しやすくなるのではないかな。

→駿河構成員：市町村やマスコミに空振りが減るようになったと周知しないとCLを見直しても避難指示等が出しやすくなることはないのではないかな。

→井良沢座長：一般の人に土砂災害警戒情報とは何か、ということを理解してもらうことも大事である。

井良沢座長：対象災害について、市町村ヒヤリングとはどういうものを想定しているか。

→事務局：小さい降雨で崩壊が発生しているような事例に対し、それが本当に避難指示に相当するような事例だったか等を確認したいと考えている。

井良沢座長：土砂災害警戒情報が頻繁に発表される市町村は地形や地質に何か特別な条件はないか、調べてみると何かわかることがあるかもしれないと考えている。

井良沢座長：降雨・災害データ期間及びCL対象災害選定について、今後の修正を行うことも含めて事務局案で承認としてよいか。

→構成員：異議なし。

(2) CLの選定について

瀧口構成員：CL超過頻度の算出において、CL対象災害を含んだ計算を行っているか。

→事務局：メッシュごとの算出結果は災害を含んでいない。市町村ごとの集計結果には含んでいる。

→瀧口構成員：了解した。結果についての意見ではないが、実際のCL超過は予測雨量を使用していたりするため、実運用ではもっと数値が上がるものであると理解したほうがよい。また、盛岡市の超過頻度が高い原因は調べたうえで、災害を選定する基準の見直しなどの対処を検討した方がよい。

→井良沢座長：盛岡市は傾向として他地域より少雨なことが多く、また小規模な災害でも発見されやすいのではないかな。極大または極小の極端化した事例が多いので、過去の災害事例も考慮した方がよい。

木村構成員：現行と見直しでの超過頻度逆転の原因が気になる場所である。原因分析を行うことが望ましい。

井良沢座長：CLの選定とその結果については、市町村の理解も得る必要がある。今回の指摘

を踏まえて次回報告するということでよいか。

→構成員：異議なし。

(3) 除外メッシュについて

瀧口構成員：緊急輸送道路を考慮しているのは岩手県独自の内容である。土砂災害警戒情報は基本として避難指示のための情報であるが、これを道路管理者と共有する等の活用を考えているか。道路に関する情報を追加することでメリットを享受する人がいるか考えて追加した方がよい。

→井良沢座長：瀧口構成員の言うとおりの道路管理者とよく相談した方がよい。道路事業では独自の警戒基準を持っている。それとは別に個人的には情報として入れ込むことは良いことであるとする。

木村構成員：東北地方の他の県と条件は揃えているのか。

→事務局：災害発生位置や警戒区域といった基本的な情報を同じと考える。しかし、詳細な設定方法が不明なため完全に同一ではない。県ごとに考え方が違うという情報は得ているため、完全に揃える必要はないと考えている。

井良沢座長：他県では山奥の観光地を考慮している事例もあった。

危険度が表示されるキキクル等では、除外メッシュであることを明示しておかないと、注意報より高い危険度とならないため見た人に誤解を与える可能性がある。雨域が西→東に移動する場合、西側に除外メッシュが多いと危険度表示が変わらず、危険な状態ではないと思われる可能性がある。

駿河構成員：市町村照会用の詳細図について、これだけを渡されても市町村の担当者は答えにくいと考える。専門知識が多くない人でも回答できるような、考え方を示しつつ問いかける型式の内容にした方がよいと考える。

(4) 土壌雨量指数下限値について

質疑等無し。

(5) その他

質疑等無し。

—以上—